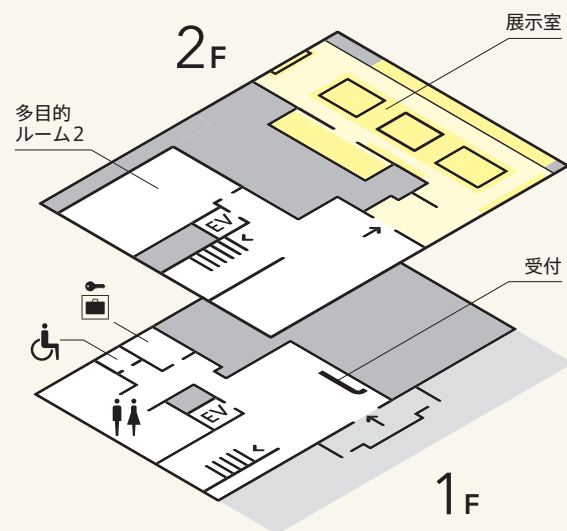


てんじしつ  
展示室について



「人びとが楽しく幸せにくらす」ために、  
石橋正二郎がしたことをいろいろな資料で紹介しています。

むかしの写真や新聞のほか、

正二郎や石橋文化センターのことがわかる  
模型も展示してあります。

画面にさわって正二郎のことを

もっと知ることができるコーナーもあります。

「正二郎がどんなきもちで行動をしたのか？」  
想像しながら見てみましょう。



石橋正二郎 (1889-1976)



# 石橋正二郎記念館

いしばし しょうじろう きねんかん

## 石橋正二郎記念館

〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015

Tel 0942-39-1131



# 石橋正二郎の生涯

## 少年のころ

ねばり強い努力家



久留米で生まれた正二郎は、子どものころから「自分が正しい」と信じたことは最後までやりとげる人でした。立派な大人になるために、勉強はきっと役に立つはず。そのことを信じた正二郎は、誰よりも勉強をがんばり、大人になっても、勉強を毎日つづけました。

## 石橋正二郎の想い

久留米市の石橋文化センターの正門には、正二郎の手書きの文字でこんな言葉が刻まれています。

「世の人々の楽しみと幸福の為に」

正二郎は、世の中の人たちが楽しく幸せに生きるために、1956(昭和31)年、石橋文化センターをつくったのです。記念館で、正二郎の想いを感じてみましょう。

## 17歳い~

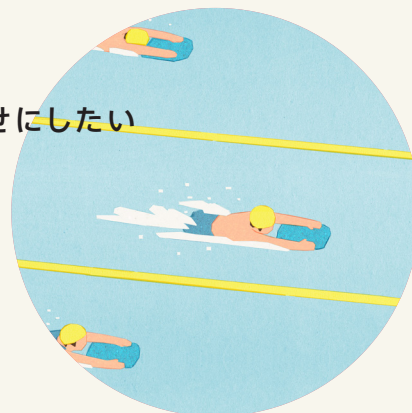
日本一の足袋屋になる



高校を卒業したあと、家で正二郎の父親が営んでいた「志まや」という足袋屋を継ぎました。足袋の裏にゴムのついた「地下足袋」を考え、九州で1台も走っていなかった自動車を使って宣伝をするなど、誰も考えない新しいアイデアで、日本一の足袋屋になりました。

## 68歳い~

人びとを楽しく幸せにしたい



正二郎は、会社を成長させながら、世の中の人たちみんなが楽しく幸せに過ごせるようにしたいと、ずっと考えていました。そして、ふるさと久留米の小・中学校21校にプールをつくったり、石橋文化センターをつくったり、たくさんの楽しさと幸せを生み出しつづけたのです。

## 42歳い~

タイヤで世界一をめざす



地下足袋づくりの技術をもとに、1930年に日本で初めて自動車のタイヤをつくり、その後、ブリッチストーンタイヤという会社を立ち上げます。足袋につづき、タイヤの販売でも日本一になり、今度は外国でタイヤを売ろうと考え、世界一を目指しました。



## 61歳い~

日本や外国に美術館をつくる



仕事でアメリカに行ったとき、正二郎は有名な美術館をたくさん見てまわります。そこで「人が楽しく幸せに生きる」には、美術館のような心を豊かにする場所が必要だと思いました。そして、久留米・東京・外国に合計4つもの美術施設をつくったのです。